

研修名	支援を必要とする子どもの保育 令和元年8月22日(木) 13:30~16:00
講演	「全体的な計画に基づく指導計画の作成と観察・記録」 「個別指導計画作成の留意点」「障がい児保育の評価」
講師	京都文教短期大学 張 貞京 氏

## 1 講演要旨

### 1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成と観察・記録

指導計画とは→指導を行うためのきめ細かい計画

(その子のトータル面を見て、日々の事や今日どうするかなどを具体的に記す)

他保育士と連携が取れ、誰が見ても分かるように書く

普段している保育を振り返り、客観視することが大事)

#### ① 個別の指導計画の作成と実践の手順

P (計画) D (実践) C (評価) A (改善) サイクル

自分の保育を客観視するために必要であり、常に見直しをする

#### ② 実態把握の方法:観察と記録の意味

(指導計画の基本、客観的な視点を鍛えることが出来る)

観察:視点を決めて観察する

例えば時間帯(登園後、食前、食後などで理由が違ってくるので細かく観察をする)や場面、他児との関係性など決める

他の保育士などからの視点を情報とする(調理師や看護師など)

記録:日々の記録を充実させる(保育日誌や記録、連絡帳など)

記録を読み返すことで、焦点を定めたことで見えてくる姿に気づく  
集団全体の中で見えてくる姿を捉える

意識するもの

- ・子ども自身と保育士それぞれが何に困っているか
- ・好きなことや人、反対に嫌いなことや人は
- ・注意点(例えば、〇〇している時に声を掛けると怒る)など

観察、記録を通して子どもの実態を把握し指導計画を考える

### 2) 個別指導計画の留意点

子どもの姿をバラバラにしない→包括的に捉える

- ・子どもの姿のできる、できないは、発達した結果である

目の前にいる子どもの姿はできるように向かっている姿だということ  
を忘れない

- ・ある姿は別の側面と深く結びついていることを基本に  
(例えば気持ちのコントロールができない=身体をうまく使えない)
- ・指導計画を常に見直すことが出来るようにする  
(PDCAサイクルを活用する)
- ・担当保育者の負担ばかりが増える事のないよう、園全体で協力をする

### 3) 障がい児保育の評価

- ・評価の視点→意欲的な姿、したくなるような行動を保育の中で展開し  
やすいように計画する
- ・援助方法の見直し→記録と評価による振り返りを重ねる事で見直し  
が可能になる  
(写真カードを作るが見ないと、援助の見直し必要)
- ・園内のカンファレンスを実施→担任以外の複数の目が必要
- ・保護者との共有→このようにしたら、こう良いように変わってきたこと  
などを具体的に伝える 伝わったかを確認する  
子どもが変われば親も変わる

## 2 感想

・今年初めて支援保育士になり、具体的な指導計画の書き方の講習を受けられて良かった。たくさんの目がある事で、子どもの実態をさまざまな角度から把握する事ができる。自分とはちがう観点を知る事で、子どもたちに返せることができ、自分自身の保育の幅も広げることができるのではと思った。

その為には園全体の風通しをよくし、共通理解を深める時間を取ったり、普段から何気ないコミュニケーションを取ったりすることが大事だと思う。計画を立てていくうえで、他の保育士と連携を取る事、指導計画を見てもらいながら自分で説明したり、分からないところがないかを聞いたりするのも有効ではないかと思う。自分の保育を振り返ること、客観的に見られるようにするのも同時にする必要がある。園だけでなく関係機関との連携、保護者との共有も深めていき、どの保育士も共通認識を持つことが必要になってくる。これは障がいのある子、ない子にかかわらず、すべての子どもに通じる。

子どもの姿から実際に計画を立てて実践、評価をして改善点を見つけて繰り返し見直しをしていく事で、指導計画の書き方も保育の質も子どもとともに成長していけたらなと思いました。

(記録 長岡京市立開田保育所 組地佳奈)